

茗溪学園 中学校・高等学校

Study Skills を身につけさせる教育 その 10 Information & Communication Technology in Education

教務部長 田代 淳一

コミュニケーションツール ・ 道具としてのコンピュータ

情報社会における Study Skills を子どもたちが習得していく過程で、コンピュータを使いこなすことは不可欠です。

茗溪学園ではコンピュータを操作する方法の指導に偏りすぎず、コンピュータの機能のどのような部分を用いてどのような Skill up ができるかを子どもたちの6年間の発達段階に合わせ、段階的に指導しています。

茗溪学園の PC 環境

各 50 台のデスクトップ PC を備えたコンピュータ室が 2 室、校内のオープンスペースに 15 台のデスクトップ PC、情報の授業で使用する AVE 室に 20 台のデスクトップ PC、図書館にやはり 10 台のデスクトップ PC。個別指導用に 30 台のノート PC。これらはすべて校内ネットワークに無線または有線で接続され、生徒は与えられたアカウントでパソコンを利用してインターネットや茗溪のメールサーバを利用することができます。寮生は寮の中高男女の各フロアにも 4 台の PC が設置され、同様の利用ができます。中学高校の合計 33 教室と特別教室すべてに PC とプロジェクタが配置されています。本校の生徒用ホームページのひとつには英語テストソフトが組み込まれており、生徒はいつでもどこでも（自宅でも）インターネットを利用して英語力を測るプログラムを使用することができます。

中学でのトレーニング

茗溪学園中学校に入学すると、1 年生でアカウントが与えられます。パソコンを利用して電子メールやインターネットを使用する操作方法を知り、初歩のインターネットリテラシーを学んでから使用を許されます。小学校時代の PC 利用経験に大きな差があり、ワードプロセッサソフトを用いて文章を作成できる生徒はどんどん先に進んでいます。



中学 2 年技術 PC 制御ロボット製作の実習

2 年生では技術の授業でロボット製作を楽しみます。班に 1 つのレゴ・マインドストームのキットが与えられ、グループで話し合いながら計画づくり、組み立てを行い、動きを制御するプログラムをパソコンから入力します。計画通りに作動できたら完成、最後はレポートを作成します。

3 年生の技術の授業では、まず全員にワードプロセッサソフトの操作を熟練させ、次にプレゼンテーションソフトを使いこなせるようにします。同時に相手に伝わるコミュニケーションとはどのようなものかを、実習で体験しながら学び、著作権の意味や尊重の仕方を学びます。家庭科や公民の授業、以前お話ししたクロスカルチュラルトークや国内研修などの行事でプレゼンテーションを実践します。特に、国内研修で班別テーマ研修のレポートが優秀だった 3 つの班は中学集会で全中学生に向けてプレゼンテーションソフトを駆使して発表します。